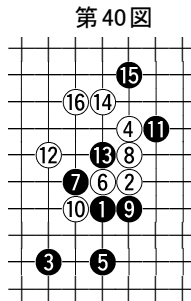


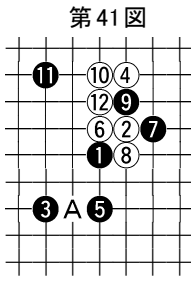
# 彗星ガイド (5)

九段 河村典彦

今回は、新しい白4に対して、ダメな黒5から見ていこう。



【第40図】白4は必勝形から一路遠いだけなので判断が難しい。この白4には黒5がダメとなる。と言うのも、白6と打たれると、黒が困るからである。黒7と受けても、白8から白12と打つ手が常套手段であり、これで黒は打つ手がない。黒は白8と引かれる手を警戒しなければならぬのが、この4の注意点である。

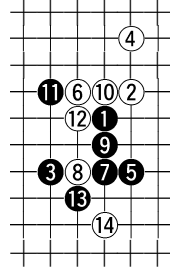


【第41図】黒7から防いでも、白8から10と押さえておく手が冷静な一手。黒11と三々の焦点を止めるのはいかにも辛い、白12と密集してこれも黒は手が出ない。下辺の引き筋も一つしかない、なかなか防ぎの足しにならない。黒5をAもほぼ同じ手順で白勝ちとなる。

というところで、通常は候補となる黒5が打てないとなると、黒はどこに打つのだろうか？

【第42図】この黒5も実はこの形では打てない。白6とこちら側の好点に打って、黒をけん制するのが作戦となる。黒7から9と打つしかないが、白10と自然にノリ手を打たれ、黒11のノリ返しに白12

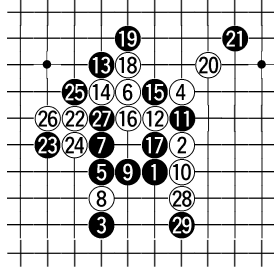
第42図



とさらにノリ返し。黒13で先手をようやく取れたと思いきや、白14と冷静に止めて、これで黒は困っている。あれ？この2つがダメとなると、一体何題打てるのか？と言いたくなるが、実は二題は十分打てる。実戦では三題でも面

白い。

第43図



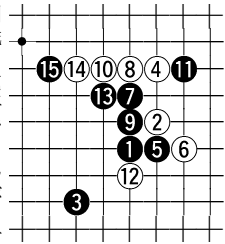
【第43図】黒5とこちら側に打つのが正解となる。白も6と大上段に構えるのが強いが、何とこれで第17図に戻っている。こういうことがよくあるので、常に関連性を意識しながら研究した方がいい。

第18図、第19図で解説しているが、最終手黒29を変えた図を載せておく。白6を12や15なら、黒10と引いて良く、白6を10なら、おとなしく11と中止しておく。

黒5を7と打つ手も、白6ならこの図に戻るので題数候補になりそうに見えるが、白6を2の二路右に打たれて黒が困る。いろいろ調べたが、どうやら黒負けになってしまいうさだ。つまり、黒5の候補は左側では黒5しかないようだ。

【第44図】二題目の黒5に移ろう。黒5と打つ手は白の連を叩き、新たに連を作る手なので価値が高いはずだが、黒3の位置が遠いだけに簡単に良くなる訳ではない。白6と打つのが当然の手で、黒3と白4の場所がどう影響するかが問題である。

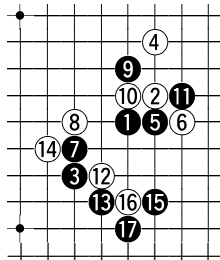
第44図



長期戦を覚悟でのんびり打つのが楽しいかもしれない。

黒7と叩く手が当然のようだが、交換に白8とかぶせられる。ここで防ぎに行つては一手一手となつてしまうので、黒9とけん制しておくのがこういう場合の手筋である。ただ、白12と落ち着いて止められると、黒も難しい。黒13はあまり感觸の良くない手なのだが、こう打つて

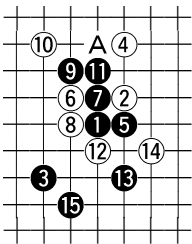
第45図



思えない程の好形となる。

【第45図】黒7では実は図のように攻める手がある。こういう手は研究しないと見えてこない。白8から9と引いても後が続かないし、うまくけん制する手もない。白8はやむを得ないが、この交換はずいぶん黒が得をしている。黒9、11と一旦は止めるが、黒13から思いつきり攻めていい。例えば黒17まで打てば、初期値が彗星とは

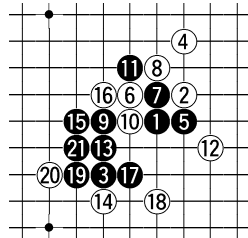
第46図



【第46図】白も6でこのようにけん制するのが對抗策となる。この手には素直に黒7と入つておく。白8の押さえなら、黒9と引き、

続けて黒11と乗り込んでいく。白12の止めなら、黒13と押さえ、白14を待つて黒15と構えるのが妙手となる。白12でAももちろんあるが、白Aは白の権利なのでそれほど重要ではなく、白が下辺に防ぎに来た時に、いかに勝ち形を

第47図

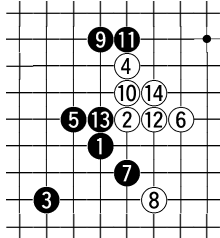


作れるかがこの形での勝負となる。

【第47図】白8の変化。当然黒は9と止める。白10で外止めに三を引かれたら、素直に上止めをしてあげばよい。白10なら黒11と引き、白の止め方によつて攻め方を決める。

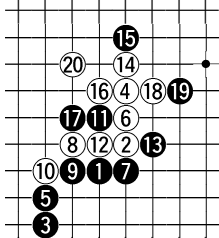
白12なら、黒13と引いて左辺で決着をつける。黒21まで引いて以下両四追いだ。また、白12を上止めで、同じく黒13と引いて良い。白18を反対なら、直ちに四追ひとなる。

第48図



【第48図、第49図】今回は最後まで黒の敗着で締めておこう。両図とも黒5は負けとなる。第48図の黒5なら白6と打たれて黒困る。黒7と一本引けるが、黒3とつながるには遠すぎる。白14まで白には四追ひが残る。また、第49図の黒5にも白6と引いてから白8と打つて、黒の三々を脅かしながら攻めるのが好着想だ。黒9、11と防いでも、白12から攻めていけば白はさほど難しくなく勝つことができる。

第49図



第49図の黒5の変化。白14の四ノビから白16のミセ手はこういう場合の常套手段で、白18と逆に引くのも手筋である。こうしておいて白20と含み手を打てば、黒はもう防ぎがない。